

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200446		
法人名	社会福祉法人唐津市社会福祉協議会		
事業所名	唐津市社会福祉協議会認知症対応型共同生活介護事業所おうか		
所在地	佐賀県唐津市相賀5134番地2		
自己評価作成日	平成27年1月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年2月19日	外部評価確定日	平成27年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①閑静な環境のもと、ゆったりとした時間を過ごすことができる。②季節の野菜を職員と一緒に植え、育っていく過程(さまざまな変化)の観察や収穫、また、それをどのようにして食べようか等、楽しく話しながら、皮むきを手伝ってもらったりして調理し、一緒に頂いている。③入所者様が出来るだけ元気でいられるよう、1日1回は運動の時間を設けている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>自然豊かな環境の下、唐津市社会福祉協議会が母体となるグループホームおうかは平成26年4月に開設され、元居宅の介護支援専門員だった管理者は、事業所理念にも掲げているとおり、自宅での生活の延長となるよう、家庭的な環境を作り、利用者一人ひとりの思いや希望を大切にされた支援に職員全員が努めている。また、地域とのつながりを重要課題の一つとして、定期的開催される運営推進会議などを通し、情報を得て、地域の人との交流を深め連携を築くことを目標としている。健康管理や医療面では、協力医と密な連携により緊急時の対応も出来ており、利用者や家族が安心できる支援が行われている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の基本理念を作成して掲示し、毎日声を揃えて読み上げながら共有し、職員はその理念に基づき実践している。	事業所開設時に管理者が考え作成された理念は、玄関及びリビングに掲示されている。また、職員は、毎朝唱和することで、仕事に向かう心構えを整え、理念に沿ったケアを管理者、職員共に実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し(文化祭)に作品展示し参加、福祉まつりに作品を出展した。	民生委員からの情報を得て文化祭などに作品を出品しているが、事業所が地域の一員としての積極的な活動が出来ていない。	地域とつながるためにも、事業所は自治会に入ることも一つの手段としてとらえ、普段の暮らしの中で回覧板などを通し地域の人と交流を深める取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会と連携し、認知症サポーター研修を受講したり、限られた人数の中で、可能な限り認知症に関わる研修受講するように努め、得た知識を職員間で共有し、認知症ケアの質の向上に努め、入所者及びその家族が安心して生活できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第3木曜日に1回運営推進会議を開催し、入所者の状況やヒヤリハット等を毎回報告し、意見アドバイスを受けたことを、実践している。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。参加者は、駐在員や行政関係者、介護職員、民生委員、家族、施設関係者で構成されている。民生委員の参加は地区の情報を得る機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度に関する疑問点等はその都度、市の担当者に確認・相談を行っている。また、市からの数々の調査に対しても、確実に報告しており、日頃から密に連絡・報告を行っている。	市の担当者と、積極的に連絡を取り協力関係を築いている。運営基準に関する相談や入居者に関する相談に出向いたり、市の研修会案内があれば参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてのマニュアルを作成している。夜間以外の施錠は基本的に行っておらず、センサーを取り付けて対応している。職員全員が身体拘束なしをモットーにケアを行っている。	身体拘束のマニュアルに沿って職員の認識の共有を図っている。日中、玄関の施錠はせず、見守り体制の工夫や利用者の外出傾向の把握に努め、いっしょに出かけるなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	採用時に虐待防止についての研修に参加。入浴時には全身の観察を行っており、皮膚等に気になる異変等がある場合は、管理者やその他の職員に報告。原因を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方はいないが、職員の中で社会福祉士が1名おり、その他、実務者研修で学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は、十分時間を掛け、一つ一つ説明を行い、理解納得をしていただいた上で締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の関わりや、定期アセスメント時に意見要望をきくようにしており、意見、要望があったときには、対応出来る内容については、職員に周知・対応している。	相談・苦情の受付体制・外部機関の明示・苦情処理に関しては、契約時に説明し、玄関にも閲覧できるよう掲示している。また、玄関入り口にも意見箱を設置し、自由に意見を述べてもらえるようにしている。家族とは日頃より意見が言いやすい関係づくりに努め、出された意見は運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から職員とその都度話せる状況を作っている。また、月1回の職員会議でも意見や要望を言える機会を設け、意見を聞いている。	職員間のコミュニケーションは、よく意見を言いやすい関係を築いている。月1回の職員会議の他に2ヶ月に1回自主参加の会議を行うことで、意見や要望を聞く機会を設けている。管理者は、母体である代表者に意見を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に勤務評定を行い、勤務状況を把握している。また、処遇改善に取り組み、職員の熱意と積極性の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勤務評定を行い、介護等の力量の把握に努めている。また、限られた人数の中で、できる限り各種研修に参加できるように努力しており、月1回の職員会議にて研修復命を行い、職員間で知識を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回開催のグループホーム連絡会に参加し、勉強会、座談会等を通し、ネットワーク作りにつとめながら、その情報をもとに他職員に復命し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1回少なくとも2時間以上の時間をかけ、じっくりと話を聞くことで、本人の不安や悩みを打ち明けやすくし、施設入所が安心したものになるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	1回少なくとも2時間以上の時間をかけ、じっくりと話を聞くことで、家族の心が開き、不安や悩みを打ち上げてもらえるように努力してる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1回少なくとも2時間以上かけ、ご家族の本当の気持ちや、その状況等を詳しく把握し理解することから始め、「今どうして欲しいのか」「何が必要なのか」を一緒に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、その人の能力に合わせ、掃除や洗濯物、食事の後片付け等、職員と一緒にっており、食事も職員と一緒に摂取している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に最低1ヶ月に1回は、面会に来て頂き、ご本人と接する機会を作って頂けるよう、勧めている。また、可能であれば他科受診はご家族でと、勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人・友人に可能な限り、面会に来て頂けるよう、その都度お願いしている。ほとんどのご家族が月に数回訪問される。	本人がこれまで大事にしてきた関係については、日常会話や家族からの情報を得て支援につなげている。面会に来られた人には、くつろいで過ごしてもらえるよう配慮している。馴染みの美容室・理容室へは、家族の方が送迎されたり、来所で対応したり、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から、利用者様同士の関係を見て、意見も聞きながら把握し、職員間で話し、より良い関係でいられるよう、席を変更したり、職員が代弁したり、関係が悪化しないよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新規事業のため、契約終了の事例なし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その都度ご本人に対し、意向の確認を行っている。	日々の関わりの中で利用者の思いや意向の把握に努め、画一化したケアにならないよう職員間で共有している。把握が困難な場合は、本人の表情や仕草で汲み取るよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出生時から現在に至るまでの、生活歴についてアセスメントを行い、その人の生活スタイルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は常日頃から、関わりを持ち、個々の現状把握に努め、新たな発見や変化等があればその都度ケース記録やホーム日誌に記録、朝・夕の申し送りにて報告・情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より、面談や電話にて、本人やご家族の考えや希望等を把握し、その都度職員に伝え、情報を共有している。また、モニタリングや評価時に担当の職員や家族等と話し合いを行っている。	利用者や家族には、日頃の関わりの中で思いや意向を聞き取り、かかりつけ医の意見を含め、関係する職員全員で共有し、利用者本位の現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容等は個別のケース記録に記録し、ホーム日誌の伝達事項に記載して職員間での情報も共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のご本人やご家族との関わりの中で、希望・要望が生まれた際には、できる限り意向に添えるよう、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元で行われる文化祭に作品を出展し、地元住民や子供達の歌や踊りの発表等を観覧。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常日頃から、かかりつけ医との連携を図っており、些細なことでも医師に報告指示を仰ぐようにしている。また、結果をご本人に説明、また家族へ対しても報告している。	入居時に家族・利用者に同意を得て、月2回の協力医の往診を支援している。利用者の状態の変化や緊急時には、いつでも適切な医療が受けられるよう24時間連絡体制が整っている。専門医(耳鼻科、歯科等)受診に関しては、家族に対応していただいている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はないが、日々の健康状態を管理者に伝え、管理者が医師と連携をとることにより、適切な健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療機関への同行、診察の立ち会い時には、経過等の情報提供を行い、定期的な面会を行い、現状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に当施設のターミナルケアについて家族へ説明し、同意を得ている。	重度化や終末期の対応については、契約時に説明し同意を得ている。まだ開設して1年足らずで看取りの経験はないが、状況の変化があった場合は、看護師・協力医と綿密に連携できる体制は整っており、利用者や家族が安心して過ごせるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成している。感染症対策についての職員間での勉強会を開催している。今後急変時の応急手当、初期対応法の勉強会を行いたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災訓練を実施。災害発生時の対応マニュアルを作成しているが、避難の訓練や地域との協力体制はまだ築けていない。	火災訓練は、年2回昼と夜を想定し、元消防職員の協力を得て、避難訓練・消火器の使い方などの訓練が職員が全員参加できるよう2日間かけて同じ訓練を実施している。火災報知機・スプリンクラーの設置があり、設備点検も定期的に行なわれている。消防署や地域との協力体制が出来ておらず、施設内の備蓄など準備されていない。	火事や災害の際には、人的支援が必要になるため地域との協力体制は必要と思われる。運営推進会議などで地域の消防団などに協力を依頼し、近隣の住民に対しても交流を深め、避難訓練など協力していただけるよう期待したい。また食糧、水の備蓄も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念にも利用者様の尊厳を上げており、職員全員が念頭に入れ、ケアにあたっている。また、常にプライバシーの保護や優しい声掛けを心がけるようにしている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、排泄介助や入浴介助には声掛けにも気配りしながら誘導するなど、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするよう努めている。また、ホーム便りなどの写真記載に関しては家族に承諾をいただいている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定を促す言葉かけを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人やご家族の希望は可能な限り対応するようにしている。生活習慣や身体状況などを配慮しながら、ご本人やご家族の思いを尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあっているか、汚れてはいないか、乱れはないか等気をつけている。爪、また、男性では髭が伸びていないか等、気をつけている。2ヶ月に1回、ご家族様(美容師)のご協力にてに訪問して頂き、散髪して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼と夜は地域で人気のレストランに委託している。品数が多く旬の食材を使った食事で入所者様にも職員にも好評である。休日や祭日は職員と一緒に作れるよう、ホットプレートを使用したメニューにしたり、平日から片付けは一緒にしている。	上品な味付けで旬の野菜を取り入れた色彩豊かな食事が、利用者の食欲をそそる。食事の時間が楽しく、和やかな時間となるように、スタッフもともにテーブルで、入居者と同じメニューを頂いている。誕生会にはケーキが用意され、利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表に摂取量をチェックし記録している。また、献立を記録している。水分制限が必要な方の管理も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、個々の利用者の能力に応じ、行っている。義歯の不具合や痛み等ある場合は、協力歯科医に訪問診療をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入所時より、排泄チェック表にて排泄パターンの把握を行っている。また、オムツ使用されている方でも、時間おきにトイレに誘導し、排泄を試みている。	個別の排泄チェック表を作成している。排泄パターンを把握し、昼夜ともに利用者一人ひとりに応じた声かけや誘導をおこない、自立支援に向けたトイレでの排泄介助を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体状況に配慮しながら、日頃より運動や水分摂取を促している。それでも便秘となる場合は主治医へ相談し、緩下剤の処方を受け、服薬している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	家庭的な一般浴でマンツーマンによる介助で入浴して頂いている。現実的に夜間の入浴は困難であるが、できるだけ近づけるよう、午後に入浴時間を設けており、その中で、タイミングを見ながら支援している。	入浴は、毎日出来るようになっている。入浴を拒否される利用者には無理強いせず、日にちや時間をずらしたり、清拭などで対応し、利用者の自己決定を優先した入浴支援を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人やご家族からの希望や、健康上休息が必要な場合、いつでも安静臥床ができるよう対応している。少しでも安心して頂くために、枕や布団はできるだけ使い慣れたものを持ってきて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個々のファイルに閉じており、いつでも閲覧できるようにしている。また、追加や減量等、変更があった場合は、処方内容や注意事項等、その都度ホーム日誌にて職員間周知を図り、その後の経過観察を行い、主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことややりたいことを見つけ、草むしりや掃除、洗濯物干し・たたみ、茶碗洗い等、できることは職員と一緒に、少しでも充実した生活となるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があれば、可能な限り、職員が付き添い外出できるようにしている。困難な場合は家族の協力を得、外出できるようにしている。	事業所の敷地内の野菜畑の手入れをしたり、希望があれば近くのコンビニまで買い物に出かける。要望があれば利用者の意思を尊重し、家族の協力を得て外出の支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員が金銭管理ができない方であり、すべてご家族が管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了解のもと、希望時にはいつでも電話を掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、居間等の共用の空間は常に清潔が保てるよう、こまめな清掃を行って、障害となるものは置かず、季節の花を飾ったり、温度や湿度にも気を遣っている。	一日の大半を過ごす共用空間は日当たりがよく明るい。窓からは、春には咲こう枝垂れ桜の木が見える。フロアにはテーブル・椅子が設置され、居間にはソファが配置されており、それぞれお気に入りの場所でテレビを観賞したり、思い思いに自由に過ごせる工夫をしている。浴室、トイレ共にきれいに掃除され、不快な臭いもなく清潔な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であるリビングにはソファを向かい合わせに置き、仲の良い者同士で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはできるだけ使い慣れた馴染みのあるタンスや布団類を持ってきて頂くようお願いしている。	居室は広く、ベット、整理タンス、クローゼットが備え付けてある。布団などそれぞれ馴染みのものが持ち込まれ、思い思いに飾り付けをしてくつろいで過ごせるよう工夫されている。中には仏壇を持ち込まれている方もいて、毎日のお参りができ落ち着いた生活ができている。室内は、毎日職員が清掃を行い、清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常の関わりの中で、個々の出来ることを見つけ出し、出来ることがあれば職員が付添い見守りながら、安全を確保して行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない